



新たな創造
確かな発展
—はたちの富士市—

☆市民の森林づくり—十六日(金)九時から大淵にて、詳細は林政課。
☆全国県木の森づくり、ふるさと村記念碑の建立—二十五日(日)広見公園にて、詳細はみどりの課。

新市二十周年記念 五月の行事



▲妙法堂



▲影山さん

岩本の 妙法天狗

岩本実相寺の山門をくぐると、左側に妙法堂と呼ばれる小さなお堂があります。今回は、この妙法堂に伝わるお話しを岩本上町の影山茂夫さん(六十一歳)に教えていただきました。



伝わっているいろいろな話

この妙法堂には、昔からたくさんのお話しが伝わっています。

子供が生まれたら赤飯をすのこに盛って供えます。そして、白紙に赤い梅を染めてその紙を御堂の横にあるさるすべりの木に結びとその赤ちゃんは健康になるといわれています。

春の節句のころは、成人した者が幼いころ、祝ったひな人形を持ち寄り御堂に供えて成長を感謝しました。

また、疱瘡神様とも呼ばれ、天然痘の蔓延したときにその治療を祈願したともいわれます。

一時に千里を走る天狗

いろいろな話が伝わっています。妙法堂は妙心と法心という兄弟の天狗をまつています。この天狗は妙法一神といわれ、足と手の神様で、一時に千里(約四千キロメートル)走る力をもっていました。足や手の病気に悩む人は

祈願すると直るといわれています。

毎年四月にマラソン大会

影山さんは、老朽化した妙法堂を地域の有志とともに昭和五十一年に補修しました。

それを機会に、地域の子供たちを集めマラソン大会を始めました。

影山さんは「子供たちが妙法天狗のご利益で足が走くなるというね。お参りに来る人もよくいますよ」と語ってくれました。



▲ことしも大にぎわいのマラソン大会(4/3)

地名の由来

宇東川 (原田地区)



宇東川地区のまん中を松原川が流れ、西側は一段高く今泉の御殿地区があります。そして、宇東川地区と御殿地区の境付近は、おおむね絶壁になっています。

宇東川の宇は「家の軒下」という意味があります。地形的に見ると宇の東であり、松原川を抱えた村だという意味で、宇東川という地名になったのではないのでしょうか。

こちら編集室

「市制二十周年に於いて二十歳の人を表紙にしたらどうだ?」「さすが先輩、いい考えですよ」と安易に決めたのが運のツキ。自称ヤングも気付いてみればオジサンで、全くツテがない。今回の鈴木さんにも迷惑をかけました。我と思わん二十歳の方、編集室へ一報を。



盛んだった 俳句活動



▶中比奈にある菅雅の句碑

19世紀の初め、文化・文政のころは農村でも俳句が盛んでした。

この地方を代表する俳人といえば比奈の松井菅雅(1769~1818)をあげることができます。菅雅は去留の弟子で江戸に学び、駿府で時雨窓の代表者として活躍しました。

原田の妙善寺観音堂には46首の俳句が刻まれた額があります。これは、享和3年(1803)吉永の渡辺佳亨が江戸・興津・沼津などから当時一流の俳人呼んで俳席を設けたものです。

吉原第二中学校(今泉)東側の十王子神社にも句額があります。奉納されたのは文政12年(1829)で、句の数は49、納句の顔ぶれから相当大きな集まりだったと推察されます。

これらは、この地域の俳句活動が盛んであったことを示しています。